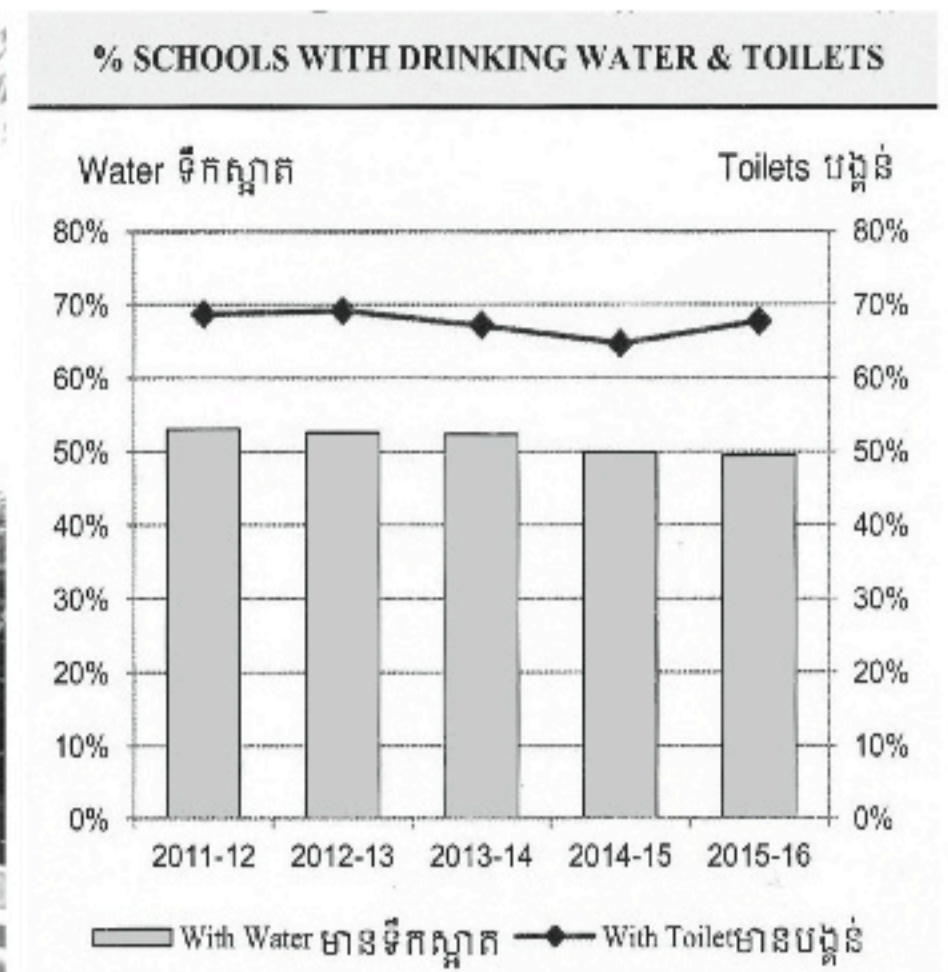


# 衛生指導（カンボジア）

## トイレや水を利用できる学校環境を目指して



新しい井戸で手を洗うオルッセイ小学校の生徒



トイレと水が確保されている学校の割合



学校建設の最終協議で衛生に関する説明をするJHPスタッフ

JHPは校舎建設と同時にトイレ、給水設備(井戸、給水タンク、ため池)を支援しています。2016年度の実績は、トイレ6棟15室、井戸1基、給水タンク4基。JHP支援の各学校には衛生教本50冊を配布しています。その他、1999年に支援したサマキボンスマイチ小学校のトイレ補修を行いました。井戸水は研究機関で水質検査を行ない、ヒ素、大腸菌などの有無を学校に報告しています。表の通り、カンボジアの小・中学校、高校で、飲料水を確保できる学校は約50%、トイレがある学校は約70%にとどまっています。2016年度に建設したポー小学校分校の場合も、調査時にトイレや給水設備がありませんでした。子どもたちの学びを支えるために、衛生環境の整備は欠かすことができません。

### ソックナークリー先生

(クランリウ小学校校長、教師歴32年、校長歴10年)

新しい校舎ができてから生徒が安定して学校に通ってきています。多くの生徒がトイレを利用するようになり、多くの生徒がトイレが開くのを待っています。手洗い場がないので、バケツに水を入れて用意しています。校内清掃は教師がスケジュールを作っています。1クラスを6班に分けて、校庭、教室内、トイレ、草花の水やりなど、月~土曜まで6つの清掃作業をしています。以前はゴミをどこでも捨てていたのが校内にゴミが散乱していました。JHPの衛生指導で生徒はトイレを使う事の意義や方法を理解し、手を洗う習慣ができました。衛生に関する授業は、木曜日の生活技能の時間に行っています。

本学は女性の教師を衛生責任者にしています。毎月近隣の5つの学校でミーティングを実施しており、本学の責任者が指導することもあります。



### プーン ウォット ラサーンさん

(チエンダイ中学校3年生、15歳)

中学2年生の時にJHPのワークショップに参加し、サブリーダーを務めました。古い校舎より新しい校舎の方、風が入り、涼しく、良い机で、椅子も座りやすいから好きです。授業に集中できます。以前はトイレが無く、特に女子は近くの家のトイレを借りていました。ワークショップではどのようにバクテリアが体に入っていくのか学んだことを覚えています。内容は難しかったけれど、一生懸命に説明しようと努力しました。衛生については、朝夕の国歌斉唱の後、1週間に1~2回程度クラスで覚えていることを伝えています。例えば、「学校をきれいにしましょう」、「ゴミをひろいましょう」などについてです。中学3年生は6班に分かれて月~土、1日2回(授業前と後)掃除をしています。

